

十七點を陳列して來賓の參觀に供したり
△この程石州濱田中學校内に開かれし繪畫
展覽會は同校圖畫教師杉浦頼武氏出品の參
考畫も澤山あつて中々盛會なりしといふ

△但馬、由利氏へ。追々御希望に副ふやう
に勉むべく候

△相模、大橋氏へ。御送りの繪は遠近法の
間違あり、且主體なく圖柄も陳腐に見受候。

△陸前、海老名氏へ。御入念の作なれど左の
方省筆に過つて圖柄かたより申候。一層御研
究ありたく候

△京都、北村氏へ。保津川の景對岸も前景
も同一筆法にて奥行見え折角の好畫願今
一工風ありたく候

△周防、久保氏へ。御寄稿面白く拜見いづ
れみづゑ紙上を飾り可申候
△神戸、枯星氏へ。御手紙ありがたく候

新刊(十月廿日迄に寄贈を受けし分)

- 英學生 二ノ十、十一 東西社
- ハガキ文學 二ノ十五 日本樂書會
- 同一週年紀念號 同
- 美術新報 四ノ十二、十三 畫報社
- 文庫 三ノ一 内外出版協會
- 家庭の友 三ノ七 同
- 向上主義 十三、十四、十五 久友社
- 白百合 二ノ十二 東京純文社

●彼 着 一ノ四 一圓正城氏

●國民評論 八 國民評論社

●音 樂 八ノ六 樂友社

●美しき音樂エハガキを添えたり

●心の花 九ノ十 竹拍會出版部

●歐 舞 六十六 歌舞伎發行所

●市川團十郎追善芝居の記事多し

●能 樂 三ノ十 能樂館

●卯杖(慰問の巻) 秋聲會出版部

●諸家の繪畫及美文ありて賑やかなり

●新 潮 三ノ四 新潮社

●學 燈 九ノ九 丸善株式會社

●シヤシン月報 十ノ九 小四木店

●日本園藝雜誌(新秋の巻) 日本園藝會

●園藝の友 一ノ四 園藝研究會

●日本美術聲若の巻 日本美術社

●口繪の鮮麗なるは此誌の特色、森田氏の
人體の形相は人物畫に志す人の必讀すべ
きものなり

●新 文 藝 二ノ十二 新文藝社

●帝國文學 十一ノ十 帝國文學會

●青 春 四 青春社

●會 告

限り、寫眞版に付して、本誌に登載すべ
し但作品ははがき大に限る

●左の事項につき廣く投書を求む

□水彩畫に志せし最初の動機

□始めて戶外寫生を試みし時の感

□寫生中に起りし興味ある出來事

□畫を學びし爲めに得たる顯著なる利益

□其他水彩畫に關する意見報導小品文等

□以上切の期を定めず、半紙十行二十字
詰にて、簡單に、字體明瞭に認められたし

●繪畫及寄稿にして、本誌に登載せしもの
(讀者の領分欄を除く)には、主任天下藤
次郎の内筆繪葉書一葉を贈るべし

●投稿の返戻を望まらるゝ方は、相當の郵券
を添へられたし

●水彩畫に關する質問にして、一般讀者に
有益と認むるものは、答へを紙上に掲載
すべし、但初めより返信料を添へられし
ものは直ちに答書を送るべし

●眞野紀太郎氏は、遠近法に關する質問に
答へらるべし。

●但複雑なる圖説を要するものは此限りに
あらず